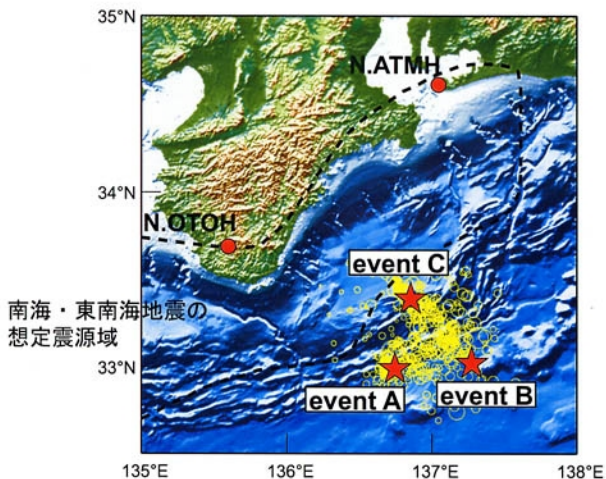
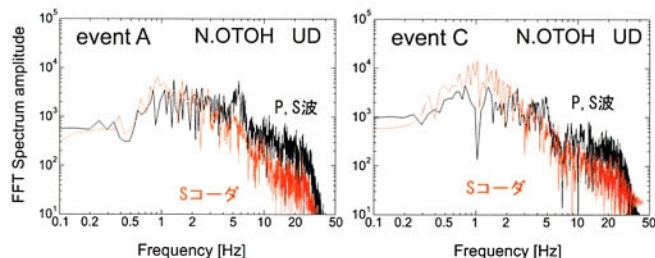


# 2004年9月5日紀伊半島南東沖の地震の余震波形における特徴

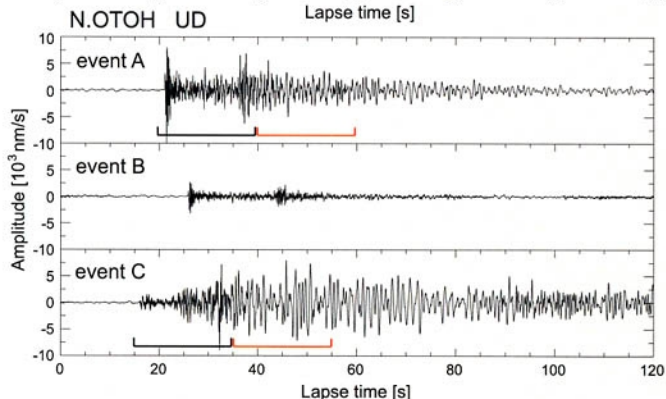
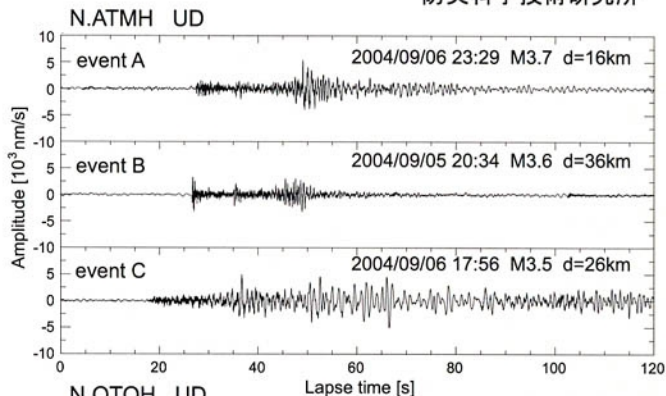
防災科学技術研究所



南海・東南海地震の  
想定震源域



スペクトル例。イベントA及びCのP, S波を含む20秒間を黒で、  
その後のSコーダ部の20秒間を赤で示す。



観測波形例。横軸は発震時からの経過時間、黒と赤で示した区間は左図のスペクトル  
解析区間に対応する。震源要素はすべて防災科研Hi-netの暫定解析結果に基づく。

イベントCのSコーダは同規模の他の地震に比べ継続時間が長く、低周波に卓越しており、震源は比較的浅いと考えられる。この領域では、同様の低周波に卓越した地震が他にも発生している。